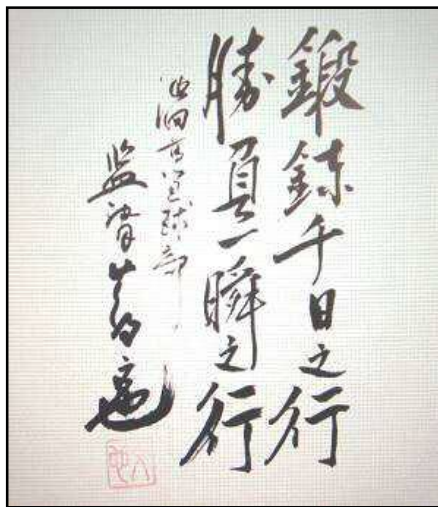




鍛錬千日之行 勝負一瞬之行

「鍛錬千日」の「鍛」という字は、「体や心をきたえて強くする」という意味があります。また、「錬」には、「時間をかけてじっくりとねりあげる」という意味があります。「勝負一瞬之行」とは、「勝負は一瞬で決まる」という意味です。つまり、「鍛錬千日之行 勝負一瞬之行」とは、「勝負というものは一瞬で決まる。だからこそ勝負が決まる瞬間に力を発揮できるように、日々の努力や毎日の基礎練習を大切に継続していかなければならない」ということなのです。



これは、徳島県立池田高校野球部で監督を務めていた薦文也さんが、選手に言い続けていた言葉です。薦さんは28歳で高校野球の監督になりましたが、いつも、あと一歩のところまで負けてしまい、なかなか甲子園に出場できませんでした。それでも、「鍛錬千日之行 勝負一瞬之行」という言葉で選手を励まし続け、監督就任20年目にして念願の甲子園への切符を手にすることができました。そして、その後も、甲子園において、優勝3回、準優勝2回という素晴らしい成績を収めたのです。

3年生は、来週の入試本番で力を発揮できるように、また、1・2年生も、やがて高校進学を迎えます。その時になってあわてないためにも「鍛錬千日之行 勝負一瞬之行」という言葉のように、毎日の努力を大切に積み重ねていきましょう。



エコ回収の歴史

~誇るべき詫中のボランティア~

先週3月1日（金）に行ったエコ回収は、全学年そろって行う本年度最後の回収となりました。

詫間中学校では、こうして集めた空き缶や牛乳パックをお金に換えて、社会福祉協議会やたくま荘に車いすを贈呈するという活動を続けていますが、この取組は、いつ、どのような経緯で始まったのでしょうか？

新聞によると、今から20年以上前、詫中生だった片岡さんが、ラジオ番組の呼びかけに共感して一人で始めた活動だったようです。それが、家族、クラスメート、地域に広がり、生徒会からも全校生徒やPTAに広がっていきました。そして1年後、集まった空き缶を換金して2台の車いすを購入し、社会福祉協議会に贈りました。

これが詫間中学校で現在も続いている、エコ回収と車いす贈呈の始まりだったようです。一人が始めた心優しい小さな取組が、徐々に周囲に広がり、やがて学校だけでなく地域ぐるみの取組となり、それが現在も続いているのです。



この記事が書かれた1998年から数えて、今年は22年目にあたります。詫中生のDNAがあるとするなら、このボランティアのDNAは確実に受け継がれ、現在も活動を続けています。

さて、先週のエコ回収では、生徒会目標の250人には少し届きませんでしたが、200人以上の人たちが協力してくれました。来年度も一人一人の優しさが続いていく詫間中学校であることを願っています。